

# 新潟県埋蔵文化財調査事業団年報

平成 29 年度

公益財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団



# 新潟県埋蔵文化財調査事業団年報

平成 29 年度

公益財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団



# 序

埋蔵文化財は、新潟県はもとよりわが国の歴史や文化を正しく理解するために欠くことのできないものであり、かつ将来の文化の発展向上のために適切に保存・活用していくべき貴重な文化遺産です。

当事業団は、平成4（1992）年に新潟県が出資して設立したもので、組織の中心的な事業である発掘調査及び整理・報告書刊行のほか、埋蔵文化財保護に関する普及啓発・資料管理などに努めています。平成26年度には公益財団法人として再スタートを切り、現在に至っています。本書は、平成29年度に新潟県から委託を受けて実施した事業の概要や成果などをまとめたものです。

発掘調査は国土交通省の道路、県営湛水防除事業関連の6遺跡、25,595m<sup>2</sup>を実施しました。このうち村上市上野遺跡（朝日温海道路）では、縄文時代後期の土偶や耳飾りが出土しました。また、阿賀野市土橋北遺跡（県営湛水防除事業）の調査では、縄文時代後期と晩期の2面を調査し、特に上層の晩期では埋設土器など川辺の小規模な集落を確認しました。

柏崎市丘江遺跡（国道8号柏崎バイパス）では中世（鎌倉時代から室町時代）の水田を調査しています。南魚沼市六日町藤塚遺跡と余川中道遺跡（いずれも国道17号六日町バイパス）では、古墳時代中期から後期の祭祀跡を調査し、なかでも六日町藤塚遺跡の樹木の根元での祭祀をうかがわせる多数の土器や白玉、勾玉形などの石製品が注目されます。

これらの情報は、年4回刊行する広報紙『埋文にいがた』やホームページで随時公表したほか、4遺跡で現地説明会を開催し、延べ187人の参加者がありました。

普及啓発事業関係では、文化庁補助事業として、巡回展「縄文の造形美－六反田南遺跡－」、東日本大震災復興支援発掘調査出土品展、遺跡調査報告会・シンポジウム「丸木舟の考古学」とそれに合わせた「発掘！ 新潟の遺跡2017展」などを実施し、多くの方々に参加していただきました。また、火起こしや勾玉作りなどの体験を取り入れた校外学習支援や親子考古学教室、少年少女考古学教室では、児童・生徒に対して埋蔵文化財の価値や保護の大切さ、古の人々の生活や知恵を学ぶ楽しさを知る機会を提供できたものと考えています。

最後に、日ごろから当事業団の事業に御理解・御協力をいただいている関係各位に対し厚くお礼申し上げますとともに、今後のさらなる事業推進に向け一層の御支援をお願いいたします。

平成30年8月

公益財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

理事長 池田幸博



村上市 上野遺跡



■ 縄文土器

南魚沼市 六日町藤塚遺跡



■ XII層 SX17 出土土器 (古墳時代中期末～後期初頭)



■ IX層出土土器 (古墳時代後期)



■ XII層出土土器 (古墳時代中期末～後期初頭)



# 目 次

## I (公財)新潟県埋蔵文化財調査事業団の概要

1 目的及び事業	1
2 設立年月日	1
3 基本財産	1
4 組 織	1
5 役員及び職員	2
6 理事会・評議員会	2
7 予算及び決算	3
8 主な行事	4

## II 発掘調査・整理事業

1 本発掘調査実績一覧	6
2 本発掘調査遺跡 位置図	6
3 本発掘調査	
上野遺跡	7
土橋北遺跡	9
丘江遺跡(Ⅳ)	11
丘江遺跡(Ⅴ)	13
六日町藤塚遺跡	14
余川中道遺跡(Ⅴ)	16
4 整理・報告作業	17
5 平成29年度刊行報告書	18
6 保存処理	19

## III 普及啓発事業

1 現地説明会	21
2 巡回展・企画展・展示会	22
3 遺跡発掘調査報告会・講演会	23
4 校外学習等・体験イベント	23
5 入館者数	25
6 広 報	26
7 図 書	27

## IV 研修・各種委員会

1 職員研修	28
2 安全衛生委員会	29

V 市町村及び関係機関等への協力	31
------------------	----



# I (公財) 新潟県埋蔵文化財調査事業団の概要

## 1 目的及び事業

県内における埋蔵文化財の調査及び研究、保護思想の普及、啓発などを行い、本県文化の向上に寄与することを目的として次の事業を行う。

- ア 埋蔵文化財の調査及び研究
- イ 埋蔵文化財保護思想の普及
- ウ 埋蔵文化財調査技術の指導及び研修
- エ 出土遺物の保存処理
- オ 埋蔵文化財に関する資料の収集、保存及び刊行

## 2 設立年月日

平成4年3月31日

## 3 基本財産

3,000万円(県の出捐)

## 4 組織

(平成29年4月1日現在)

### 評議員会

評議員(4)

### 理事会

理事長(1) ——— 専務理事(1) ——— 理事(2)  
監事(2)

### 事務局(職員総数33)

事務局長(1) ——— 総務課長(1) ——— 職員(1) 嘱託員(3)

【本発掘調査・整理】

事務局長(1) ——— 調査課長(1) ——— 課長代理(2) ——— 職員(4) 嘱託員(8)

【普及・資料・保存処理】

事務局長(1) ——— 普及・資料課長(1) ——— 課長代理(2) ——— 嘱託員(9)

## 5 役員及び職員

(平成 29 年 4 月 1 日現在)

### 役 員

【評議員】(4名)	小林 昌二	寺崎 裕助	橋本 博文	金子 法泰
-----------	-------	-------	-------	-------

【理事会】(6名)				
理 事 長	池田 幸博	(新潟県教育委員会教育長)		
理 事	清野 一善	(専務理事)	笠原 英一	藤井希伊子
監 事	豊田 智	山田 修		

### 職 員

職 名	氏 名	職 名	氏 名	職 名	氏 名
事 務 局 長	清野 一善	調 査 課 長	沢田 敦	普及・資料課長	田海 義正
総 務 課 長	松田 祐	【本発掘調査】		【普及・資料・保存処理】	
班 長	星野 美奈	課 長 代 理	春日 真実	課 長 代 理	荒川 隆史
嘱 託 員	3名	課 長 代 理	佐藤 友子	課 長 代 理	土橋由理子
		専 門 調 査 員	山崎 忠良	嘱 託 員	9名
		班 長	加藤 元康		
		班 長	小野本 敦		
		【整 理】			
		専 門 調 査 員	飯坂 盛泰		
		再 雇 用 嘱 託 員	鈴木 俊成		
		再 雇 用 嘱 託 員	高橋 保		
		嘱 託 員	6名		

## 6 理事会・評議員会

会議名	開催日	付議事項等
臨 時 理 事 会 (決議の省略)	(平成 29 年 4 月 1 日)	1 専務理事の選定
第 1 回 定 例 理 事 会	平成 29 年 5 月 30 日	1 平成 28 年度事業報告 2 平成 28 年度決算 3 評議員会の開催
定 時 評 議 員 会	平成 29 年 6 月 19 日	1 平成 28 年度事業報告 2 平成 28 年度決算 3 役員の辞任に伴う新任役員の選任
第 2 回 定 例 理 事 会	平成 30 年 3 月 26 日	1 平成 29 年度事業計画の一部変更 2 平成 29 年度収支補正予算 3 平成 30 年度事業計画 4 平成 30 年度収支予算 5 嘱託員就業規程の一部改正 6 役員の辞任に伴う補欠選任候補者の推薦 7 臨時評議員会の招集の決定
臨 時 評 議 員 会 (決議の省略)	(平成 30 年 3 月 29 日)	1 役員の選任

## 7 予算及び決算

### 平成 29 年度収支決算書 (平成 29 年 4 月 1 日から平成 30 年 3 月 31 日まで)

#### 収入の部

(単位：円)

科 目		当初予算額	補正後予算額 a	決 算 額 b	増 減 (b - a)	備考
大	中					
基本財産運用収入	基本財産利息収入	7,000	3,000	2,999	-1	
事業収入	発掘調査受託収入	841,690,000	722,652,000	722,652,542	542	
	センター管理運営受託収入	20,012,000	21,151,000	21,151,000	0	
	(センター管理業務受託収入)	7,834,000	8,233,000	8,253,215	20,215	
	(保存処理業務受託収入)	3,200,000	3,200,000	3,200,000	0	
	(普及啓発業務受託収入)	7,404,000	8,543,000	8,543,000	0	
	(センター維持修繕業務収入)	1,574,000	1,175,000	1,154,785	-20,215	
補助金収入	国庫補助金収入	1,880,000	1,880,000	1,880,000	0	
	地方公共団体補助金収入	940,000	940,000	940,000	0	
雑収入	雑収入	35,000	24,000	44,236	20,236	
当期収入合計 A		864,564,000	746,650,000	746,670,777	20,777	
前期繰越収支差額		343,000	336,000	336,302	302	
収入合計 B		864,907,000	746,986,000	747,007,079	21,079	

#### 支出の部

(単位：円)

科 目		当初予算額	補正後予算額 a	決 算 額 b	増 減 (b - a)	備考
大	中					
受託事業費支出	発掘調査費支出	762,838,000	657,353,000	657,352,659	-341	
	(国土交通省発掘調査費)	636,526,000	527,740,000	527,739,874	-126	
	(新潟県発掘調査費)	126,312,000	129,613,000	129,612,785	-215	
	センター管理業務費支出	7,834,000	8,233,000	8,253,215	20,215	
	保存処理業務費支出	3,200,000	3,200,000	3,200,000	0	
	普及啓発業務費支出	7,404,000	8,543,000	8,543,000	0	
	センター維持修繕業務費支出	1,574,000	1,175,000	1,154,785	-20,215	
	補助事業費支出	補助事業費支出	3,760,000	3,760,000	3,760,000	0
管理費支出	総務費支出	188,000	188,000	168,260	-19,740	
	管理費支出	77,912,000	64,359,000	64,359,883	883	
当期支出合計 C		864,710,000	746,811,000	746,791,802	-19,198	
当期収支差額 (A-C)		-146,000	-161,000	-121,025	39,975	
次期繰越収支差額		197,000	175,000	215,277	40,277	

## 8 主 な 行 事

### 【平成 29 年】

- 4 月 3 日 辞令交付
- 4 日 初任者研修
- 14 日 巡回展「縄文の造形美－六反田南遺跡－」開会（新潟県埋蔵文化財センター 以下、埋文センター）～平成 29 年 6 月 25 日
- 30 日 新潟県埋蔵文化財センター講演会①（埋文センター）
  
- 5 月 11 日・12 日 全国埋蔵文化財法人連絡協議会役員会（山口県）
- 14 日 新潟県埋蔵文化財センター講演会②（埋文センター）
- 19 日 会計（監事）監査（平成 28 年度）
- 30 日 平成 29 年度第 1 回定例理事会（埋文センター）
  
- 6 月 4 日 「にいつ花ふるフェスタ」（埋文センター）
- 7 日 全国公益法人協会 公益・一般法人のための役員になったらまず初めに受けたいセミナー（宮城県）
- 9 日 安全運転管理者講習
- 15 日・16 日 全国埋蔵文化財法人連絡協議会総会（神奈川県）
- 18 日 少年少女考古学教室①、新潟県埋蔵文化財センター講演会③（埋文センター）
- 19 日 平成 29 年度定例評議員会（埋文センター）
- 28 日 安全衛生委員会現場巡視①（丘江遺跡Ⅳ・六日町藤塚遺跡・余川中道遺跡）
- 29 日 安全衛生委員会現場巡視②（土橋北遺跡・上野遺跡）
- 30 日 『埋文にいがた』99 号 発行
  
- 7 月 8 日 巡回展「縄文の造形美－六反田南遺跡－」十日町展開会（十日町市博物館）  
～平成 29 年 8 月 27 日
- 14 日 企画展「東日本大震災復興支援発掘出土品展」開会（埋文センター）～平成 29 年 9 月 3 日
- 22 日 展示会「発掘された板倉区の遺跡」開会（上越市 糸しんの里記念館）～平成 29 年 9 月 3 日
- 23 日 東日本大震災復興支援発掘出土品展講演会「わたしが掘った宮城県の遺跡」①（埋文センター）
  
- 8 月 2 日 県文化行政課連絡調整会議①（自治会館）
- 7 日 テュービンゲン大学留学生インターンシップ（土橋北遺跡・埋文センター）～平成 29 年 8 月 18 日
- 14 日 親子考古学教室①（埋文センター）
- 20 日 親子考古学教室②（埋文センター）
- 27 日 東日本大震災復興支援発掘出土品展講演会「わたしが掘った宮城県の遺跡」②（埋文センター）
- 30 日～9 月 1 日 文化庁 平成 29 年度第 1 回埋蔵文化財担当職員等講習会（神奈川県）
  
- 9 月 4 日 職員健康診断（埋文センター）
- 9 日 巡回展「縄文の造形美－六反田南遺跡－」糸魚川展開会（フォッサマグナミュージアム）  
～平成 29 年 10 月 29 日

- 10日 少年少女考古学教室②、新潟県埋蔵文化財センター講演会④（埋文センター）
- 15日 企画展「砂丘と平野の暮らし」開会（埋文センター）～平成30年3月25日
- 21日 全国埋蔵文化財法人連絡協議会情報交換会（東京都）
- 21日・22日 全国埋蔵文化財法人連絡協議会中部北陸ブロック連絡会（長野県）
- 29日 消防訓練（埋文センター）
- 10月1日 まいぶん祭り（埋文センター）
- 6日 秋のキャンペーン開幕（埋文センター）～平成29年11月26日
- 11日 安全衛生委員会現場巡視③（丘江遺跡Ⅴ）
- 15日 新潟県埋蔵文化財センター講演会⑤（埋文センター）
- 17日・18日 埋蔵文化財保護対策五県協議会（石川県）
- 21日 土橋北遺跡現地説明会（阿賀野市）、丘江遺跡Ⅳ現地説明会（柏崎市）
- 27日 安全衛生委員会 救急法講習（埋文センター）
- 28日 六日町藤塚遺跡現地説明会（南魚沼市）
- 31日 『埋文にいがた』100号 発行
- 11月6日 安全衛生委員会職場内巡視
- 12日 少年少女考古学教室③、新潟県埋蔵文化財センター講演会⑥（埋文センター）
- 16日・17日 関東甲信越静地区埋蔵文化財行政担当職員共同研修協議会（長野県）  
全国埋蔵文化財法人連絡協議会研修会（愛知県）
- 25日 巡回展「縄文の造形美－六反田南遺跡－」新潟県立歴史博物館展開会（新潟県立歴史博物館）～平成29年12月17日
- 30日・12月1日 全国埋蔵文化財法人連絡協議会役員会（東京都）
- 12月1日 関東甲信越静地区埋蔵文化財行政担当者会議（山梨県）
- 8日 市町村等埋蔵文化財専門職員実務研修①（埋文センター）
- 10日 新潟県埋蔵文化財センター講演会⑦（埋文センター）
- 28日 『埋文にいがた』101号 発行
- 【平成30年】**
- 1月12日 市町村等埋蔵文化財専門職員実務研修②（埋文センター）
- 14日 少年少女考古学教室④、新潟県埋蔵文化財センター講演会⑧（埋文センター）
- 2月15日・16日 市町村等埋蔵文化財専門職員実務研修③（新潟県庁）
- 18日 新潟県埋蔵文化財センター講演会⑨（埋文センター）
- 27日 「発掘！新潟の遺跡2017年」開会（新潟県立図書館）～平成30年3月11日
- 3月4日 第22回遺跡発掘調査報告会・シンポジウム「丸木舟の考古学」（新潟県立生涯学習推進センター）
- 5日 県文化行政課連絡調整会議②（自治会館）
- 18日 新潟県埋蔵文化財センター講演会⑩（埋文センター）
- 26日 平成29年度第2回定例理事会（自治会館）
- 『埋文にいがた』102号 発行

## Ⅱ 発掘調査・整理事業

### 1 本発掘調査実績一覧

事業者	路線	遺跡名 (回数)	所在地	調査 期間	面積 (依頼)	面積 (実質)	主な 時代	主な遺構・遺物	担当者	報告書 刊行予定
新潟県 国土交通省 長岡国道 事務所	国道7号 朝日温海 道路	上野	村上市猿沢	5/25～ 11/22	3,000	3,355	縄文 中世	中世：土葬墓、火葬墓 縄文土器、土製品、石器、石製品、 中世陶器、銭貨、人骨	小野本敦	30年度 以降
	国道8号 柏崎BP	丘江 (Ⅳ)	柏崎市田塚 3丁目	4/17～ 1/19	8,900	10,601	縄文 弥生 古代 中世 近世	竪穴建物、掘立柱建物、土坑、井戸、溝、 水田、ピット、河川跡 縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、 陶磁器、金属製品、石製品、木製品	加藤元康	30年度 以降
		丘江 (Ⅴ)	柏崎市田塚 3丁目	9/1～ 12/21	2,400	3,675	弥生 古代 中世	土坑、井戸、溝、水田、河川跡 弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、 金属製品、石製品、木製品	春日真実	30年度 以降
	国道17号 六日町BP	六日町藤塚	南魚沼市 余川	5/22～ 11/21	3,130	2,273	古墳	土坑、溝、ピット、性格不明遺構、河川跡 土師器、須恵器、金属製品、白玉・勾玉 形・その他玉類、砥石	山崎忠良	30年度 以降
余川中道 (Ⅴ)		南魚沼市 余川	7/6～ 10/3	270	458	中世 古墳	土坑、溝、ピット、性格不明遺構 土師器、須恵器、白玉、中世陶磁器、 木製品、羽口、鉄滓、台石、金属製品	山崎忠良	30年度 以降	
新潟県 新発田地 域振興局	県営湛水防 除事業(安 野川地区)	土橋北	阿賀野市 百津	4/13～ 12/7	7,960	5,233	縄文	土坑、埋設土器、ピット、石組、土器集中、 炭化物集中、性格不明遺構、河川跡 縄文土器、石器、陶磁器、金属製品	佐藤友子	30年度
合 計					25,660	25,595				

### 2 本発掘調査遺跡 位置図



### 3 本発掘調査

#### 上野遺跡 (7～8頁)

事業名：日本海沿岸東北自動車道  
国道7号朝日温海道路  
所在地：村上市猿沢  
面積：3,355m<sup>2</sup>

#### 土橋北遺跡 (9～10頁)

事業名：県営湛水防除事業(安野川地区)  
所在地：阿賀野市百津  
面積：5,233m<sup>2</sup>

#### 丘江遺跡(Ⅳ) (11～12頁)

事業名：国道8号柏崎バイパス  
所在地：柏崎市田塚3丁目  
面積：10,601m<sup>2</sup>

#### 丘江遺跡(Ⅴ) (13頁)

事業名：国道8号柏崎バイパス  
所在地：柏崎市田塚3丁目  
面積：3,675m<sup>2</sup>

#### 六日町藤塚遺跡 (14～15頁)

事業名：国道17号六日町バイパス  
所在地：南魚沼市余川  
面積：2,273m<sup>2</sup>

#### 余川中道遺跡(Ⅴ) (16～17頁)

事業名：国道17号六日町バイパス  
所在地：南魚沼市余川  
面積：458m<sup>2</sup>

# かみの 上野遺跡

事業名：日本海沿岸東北自動車道  
国道7号 朝日温海道路

所在地：村上市猿沢

面積：3,355㎡

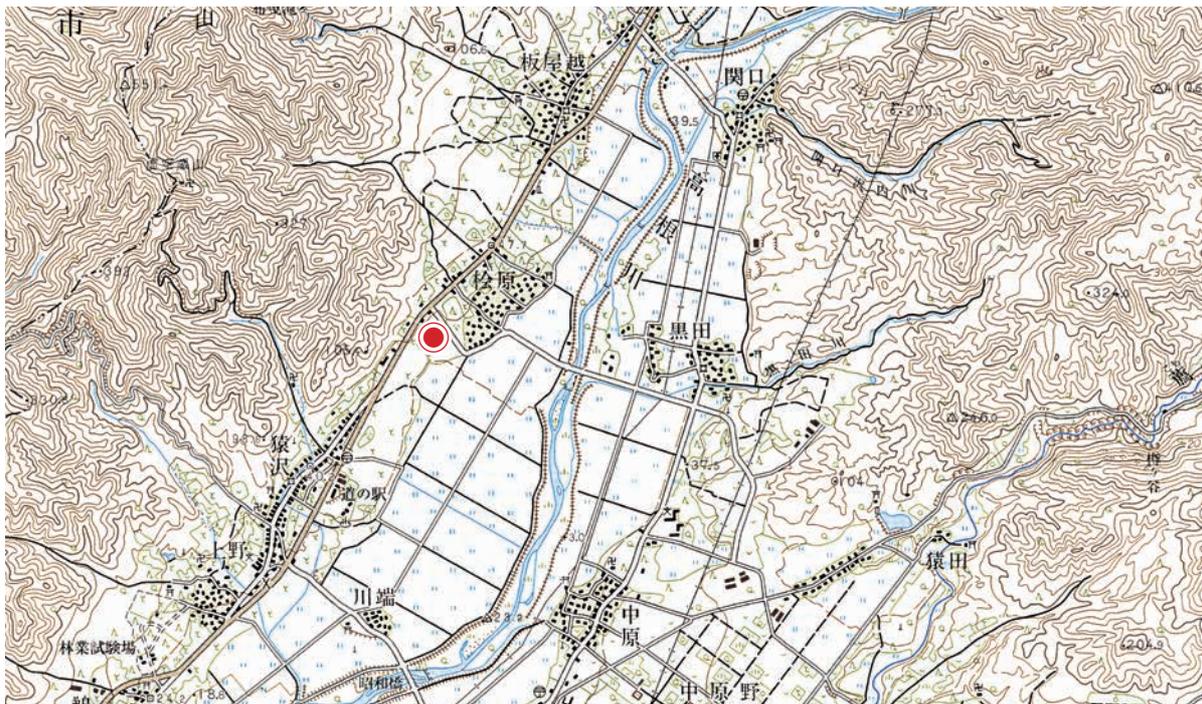
■ 遺跡の立地と調査の概要 遺跡は、鷹<sup>たか</sup>取山・虚空蔵山・新保岳<sup>しんぼだけ</sup>などが連なる丘陵地の東裾、丘陵沿いに南下する高根川<sup>たかねがわ</sup>の右岸に立地する。調査区の標高は32～34mであり、南東側に広がる水田面へ向けて緩やかに傾斜する。平成29年度の調査は、対象範囲の南端について行った。調査面積は3,355㎡である。

■ 層序 表土（I層）から基盤の礫層（Ⅷ層）までを確認した。調査区周辺の地形は、Ⅷ層の上部に土石流堆積物と砂質シルトが交互に堆積することにより形成されている。

土石流堆積物は、発生順に5層に区分した（D1～D5層）。これらは調査区北西側の山地の崩落に由来するもので、明黄褐色の花崗岩質の角礫を主体とする。層厚や礫の粒径は、層ごとの特徴があるわけではなく、各層とも流入源に近い部分は堆積が厚く、礫の粒径が大きい。流入源から離れるほど、層は薄く、礫は細くなり、上下の砂質シルト層（Ⅲ～Ⅵ層）と混じって黒みを帯びる。縄文時代の遺物を含む。Ⅱ層は、花崗岩礫を多く含むが、土壌化して褐色味を帯びる点でD1～D5層と区別できる。調査区北側ではⅡ層



● 調査区全景（東から）



● 位置図（1：50,000）

（国土地理院「塩野町」平成15年発行）

中にも複数回の土石流が層状に確認できるが、出土遺物が少ないことから調査対象としていない。Ⅶ層は調査区南側のみに堆積するにぶい黄褐色砂である。

■ 中・近世の遺構と遺物 Ⅱ層を掘削中に土葬墓と火葬墓を各1基検出した。土葬墓の遺体は北頭位で身体を西に向けて埋葬されている。胸元付近から開元通宝(初鑄621年)・熙寧元宝(1068年)・淳化元宝(990年)・皇宗通宝(1038年)・元豊通宝(1078年)・天聖元宝(1023年)が記載順に重なって出土した。銭貨の初鑄年から、中世の遺構と推定される。火葬墓からも磨耗した開元通宝が1点出土したが、炭化材の放射性炭素年代は17世紀中葉以降の数値を示し、近世の遺構と推定される。

■ 縄文時代の遺物 調査区内に縄文時代の遺構は存在しないが、D1～D5層を中心に収納箱(内寸54×34×10cm)約90箱分の遺物が出土した。内訳は土器・土製品・石器・石製品からなり、9割以上は土器である。土製品は、土偶3点や耳飾などがある。

土器は、縄文時代後期前葉の三十稻場式から南三十稻場式を主体とし、後期中葉の加曾利B式並行期のものを少量含む。小破片が大半を占めるが、D1層出土土器は完形ないし半完形の状態で1か所にまとまって出土する個体が比較的多く認められる。

■ まとめ 土石流堆積物の分布状況から、D1～D3層は北西側、D4・D5層は北東側から調査区に流入したと考えられる。D4・D5層出土遺物の供給源は周知の埋蔵文化財包蔵地としての「上野遺跡」の中心部と推定され、今後の調査対象範囲に含まれる。一方、D1～D3層出土遺物の供給源は朝日温海道路の計画範囲からは外れるものの、D1層における出土遺物の在り方から、調査区の至近に「上野遺跡」とは異なる居住域の存在が予測される。

また、上野遺跡は縄文時代の遺跡として周知化されているが、周辺の猿沢集落には中世城郭の猿沢城<sup>さるさわじょう</sup>が立地し、近世には、調査区の西側を通る国道7号の前身である出羽街道の馬次として発展した歴史的経緯がある。今回の調査結果を踏まえ、今後は中世以降の土地利用にも留意する必要がある。

(小野本 敦)



● 土葬墓(東から)



● D1層遺物出土状況(巻頭写真前から2番目の土器)

# ど ばし きた 土 橋 北 遺 跡

事業名：県営湛水防除事業  
(安野川地区)

所在地：阿賀野市百津

面積：5,233m<sup>2</sup>

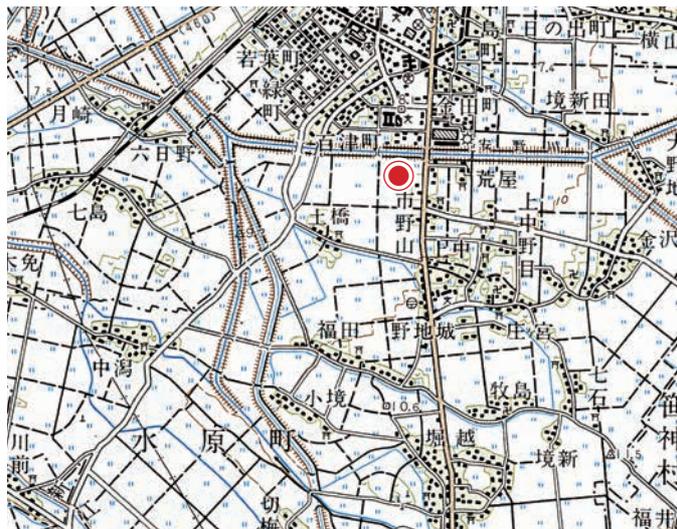
■ 遺跡の立地と調査の概要 遺跡は、阿賀野川右岸、沖積地の自然堤防上に立地する。掘削前の調査区の標高は約 7.0m である。遺跡の範囲は東西 670m に及び、A～D 区と呼称しているが、東端の D 区の本発掘調査を行った。調査面積は 5,233m<sup>2</sup>(上層縄文時代晩期 2,010m<sup>2</sup>、下層縄文時代後期 3,223m<sup>2</sup>) である。西側 A～C 区は阿賀野市教育委員会が平成 26～29 年度に本発掘調査を行っている。

■ 層 序 基本層序は I～VII 層に分層した。I・II 層が現在の水田に関わる層である。III 層は D 区に存在せず、IV 上層は①・②に細分しているが無遺物層である。①・②の境に厚さ 1～2cm 程度の a 層が入る。IV 上②層の下の A 層で自然流路 SR10 を検出した。上層の縄文時代晩期の遺物包含層は IV 下層～V 上層である。SR10 の西側については V 層を細分できておらず、すべて V 層で遺物を取り上げている。下層の縄文時代後期の遺物包含層は V 下層～VI 層である。遺構検出は V 上層で検出したものは適宜行い、VI 層上面と VII 層上面で遺構検出を行った。

■ 遺 構 上層の縄文時代晩期の遺構は炭化物集中 1 か所、土器集中 19 か所、埋設土器 4 基、土坑 3 基、性格不明遺構 3 基、ピット 5 基を検出した。いずれも SR10 の両岸で検出した。炭化物集中は東岸で幅 10m にわたり検出した。土器も多く含み、埋設土器 4 基もこの炭化物集中の範囲で検出した。埋設土器 46 の甕底部と SR10 の西岸で検出した土器集中 4 の甕上部が接合したことから、両岸の遺構が



● 調査区全景 (西から)



● 位置図 (1 : 50,000)

(国土地理院 「新津」平成 9 年発行)



● 自然流路検出状況 (北東から)



● 埋設土器 46 (左) と埋設土器 48 (右) 断面



● 土器集中 2 出土状況

同時期であることがわかった。また、埋設土器 4 基の内、46・48・49 にのみ埋土に遺跡内で見つからない白色粘質土が入っていることから、これら 3 基は同時期に設置したものと推測される。

下層では縄文時代後期の土器集中 6 か所、土坑 7 基、性格不明遺構 9 基、中期の土器集中 1 か所を検出した。遺物は SR10 付近に若干多いが全体に散布している。

■ 遺物 遺物は収納箱 (内寸 54 × 34 × 10cm) で 62 箱出土した。縄文時代晩期の土器は鳥屋式土器の甕・深鉢が主体で浅鉢もわずかに出土した。後期の土器は南三十稲場式土器の深鉢が主体で、三十稲場式土器も少量出土した。中期の土器は大木 9 式土器が少量出土している。

石器は土器に比べ少量で石鏃・磨製石斧・磨石類・石皿などがある。石鏃にはアスファルトが付着したものがあ

■ まとめ 土橋北遺跡は上層が縄文時代晩期後葉 (約 2,500 年前) の集落跡である。水辺に形成された小規模な集落と推測され、遺跡はさらに南側に延伸する。

下層は縄文時代後期前葉 (約 4,000 年前) の土器が少量、ほぼ全域に散布している。西側の阿賀野市が発掘調査を行っている A ~ C 区は後期が中心の遺跡のようである。今後これらの成果を詳細に検討し、遺跡の性格について分析を行う。

(佐藤友子)



● 縄文時代後期・晩期の土器と石器



● 縄文時代晩期鳥屋式土器 甕

上: 土器集中 4 下: 埋設土器 46

# おかえ 丘江遺跡(Ⅳ)

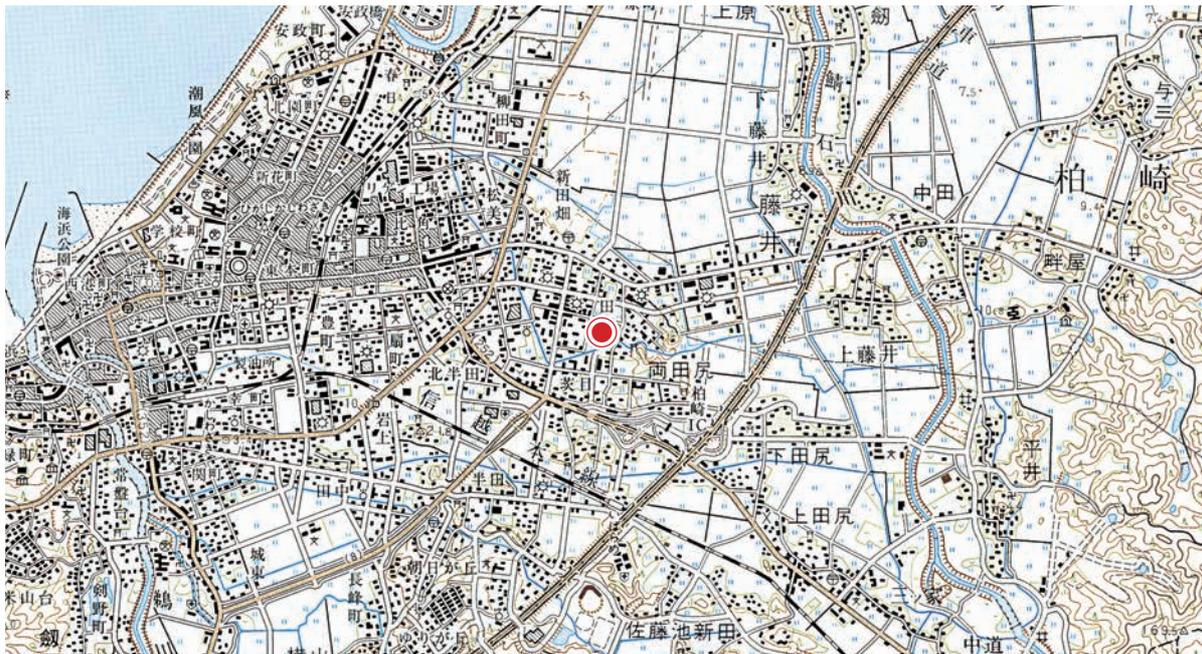
事業名：国道8号柏崎バイパス

所在地：柏崎市田塚3丁目

面積：10,601m<sup>2</sup>

■ 遺跡の立地と調査の概要 調査地点は、<sup>かしわざき</sup>柏崎平野の<sup>さばいしがわ</sup>鯖石川左岸の扇状地に位置する。掘削前の標高は約7～7.5mで、地形は西に向けて緩やかに傾斜する。平成26～28年度までに3回の調査を実施し、29年度は、調査対象範囲の中央より北側の4,450m<sup>2</sup>の一面を対象とした。調査面は上層・中層・下層で、調査面積は10,601m<sup>2</sup>（上層3,587m<sup>2</sup>、中層3,516m<sup>2</sup>、下層3,498m<sup>2</sup>）であった。上層は中世後期から江戸時代前期、中層は中世前期から後期、下層は弥生時代後期・平安時代・中世前期である。下層の調査面から約20cm下からは縄文時代後期の遺物が出土する。水田や溝を上層・中層・下層で、上層では掘立柱建物・竪穴建物・井戸・土坑、下層では竪穴建物・柱穴・土坑・自然流路を検出した。縄文時代の包含層は遺物が希薄なことからトレンチを設定し、掘り下げ、遺物が出土した地点を拡張して調査を実施した。

■ 層序 基本層序は、隣接する丘江遺跡(Ⅰ)の基本層序を参考にⅠ～Ⅴ層に分層した。Ⅰ層は灰色シルト(N6/0『新版標準土色帖』による。以下同じ。)の表土である。Ⅱ層は丘江遺跡(Ⅰ)のⅡ1層をⅡa層、Ⅱ2層をⅡb層とし、Ⅱb層とⅢ層の中間的土質の層をⅡc層とした。Ⅱa層は灰色シルト(10Y4/1)で、上下の土層に比べて暗い。Ⅱb層はオリーブ灰色シルト(10Y4/2)の土壌で、下位は上位に比べて粘質が強く、暗い。上面が上層の遺構検出面である。Ⅱc層は灰色粘質シルト(10Y4/1)である。Ⅲ層は黒色土(7.5Y2/1)で、色味の淡い層(Ⅲ'層)がある。上面が中層の遺構検出面である。Ⅳ層は明青灰色土(10BG7/1)で、上面が下層の遺構検出面である。Ⅳ層の上位には炭化物が混じる層(Ⅳ'層)が水田耕作を受け、部分的に存在し、弥生時代から古墳時代の包含層と考えられる。Ⅳ層上面から約20cm下には前後の層に比べてやや黒味があった土層(Ⅳ''層)があり、縄文時代の包含層と考えられる。Ⅴ層の土質・色調はⅣ層と同じであるが、Ⅳ層に比べるとしまりが強い。下層の自然流路の両岸はⅤ層上面で検出している。



● 位置図(1:50,000)

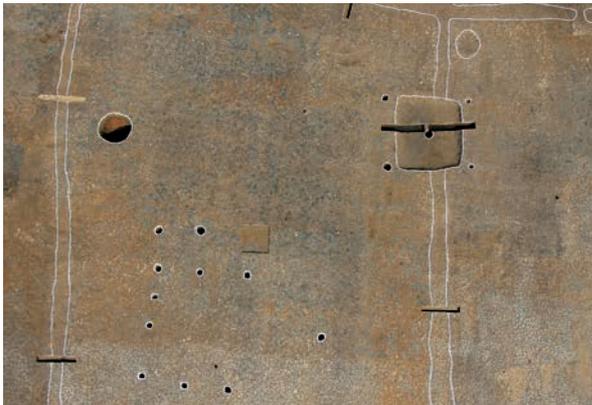
(国土地理院「柏崎」平成19年発行)

■ 遺 構 遺構は水田・溝を各層で検出した。水田区画は上層では東西南北方向を意識し、中層と下層は東西方向と自然流路が埋没した傾斜を考慮し、構築されている。中層と下層の畦畔は重複する箇所が多い。しかし、中層より下層の区画が小さい傾向にあるため、異なる時期の遺構と判断した。上層では掘立柱建物・竪穴建物・井戸・土坑を整った配置で検出し、同時期に機能したと考えられる。竪穴建物の埋土下位には植物繊維が多量に含まれ、炭化・未炭化の種子が出土した。規模や構造から家畜小屋の可能性を検討している。下層では平安時代の竪穴建物を検出した。建物の規模に比べて、煙道が長い構造である。自然流路の下位からは弥生時代後期の土器や木製品を発見し、中位からは平安時代の土師器や伐採木などが出土した。埋土の下位から中位は自然木の枝木や多量の砂が含まれており、洪水による堆積と考えられる。上位には泥炭層が堆積し、中世の水田耕作を受けていることからその頃までには埋没したと想定できる。

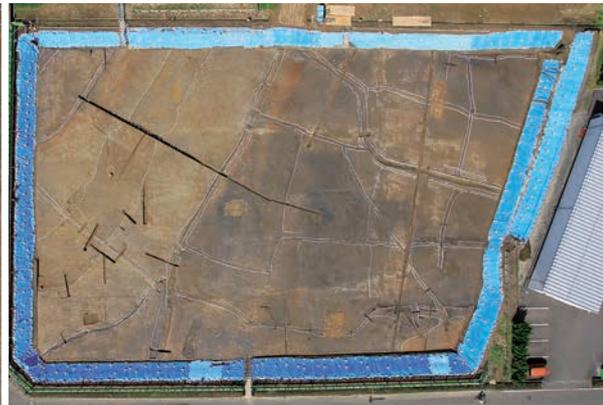
■ 遺 物 遺物は縄文時代・弥生時代・平安時代・鎌倉時代から室町時代の遺物が出土した。縄文時代後期の土器・石器、弥生時代後期の土器・石製品・木製品、平安時代の土師器・須恵器、鎌倉時代から室町時代の土師質土器皿・青磁・珠洲焼・銭貨・石製品、家紋付の小柄などの金属製品、唐津焼などの近世陶磁器が出土した。

■ まとめ 当遺跡では各層にわたり中世の水田を検出した。これまでの調査で当調査区の南側には中世の集落が展開することが判明しており、集落の近郊に水田が広がるという当時の景観が明らかとなった。平安時代の建物や弥生時代・縄文時代の出土遺物から集落の存在が窺われ、中世は主に生産地、中世以前は居住地と河川があったと想定できる。河川が埋没するという環境の変化が場所の役割に違いを生じさせたと考えられる。

(加藤元康)



● 掘立柱建物・竪穴建物・井戸・土坑（上空から）



● 中層の遺構完掘状況（上空から）



● 下層の竪穴建物完掘状況（北東から）



● 下層の自然流路断面（南から）

# おかえ 丘江遺跡(V)

事業名：国道8号柏崎バイパス

所在地：柏崎市田塚3丁目

面積：3,675m<sup>2</sup>

■ 遺跡の立地と調査の概要 調査地点は、<sup>かしわざき</sup>柏崎平野の<sup>さばいしがわ</sup>鯖石川左岸の沖積地微高地上に位置する。調査前の標高は約6mである。調査は平成26年度から継続中である。丘江遺跡(IV)の北東約120mが丘江遺跡(V)の調査地点である。8月から事前準備を行い、9～12月にかけて掘削・測量作業を行った。遺物包含層・遺構検出面は3面確認できた。



● 調査区全景(下層)(北東から)

■ 層序 層序は、これまでの調査成果を参考に、I層(表土)、IIa層(近世初

頭から中世の遺物包含層)、IIb層(上層の遺構検出面・中世の遺物包含層)、III層(中層の遺構検出面、古代・弥生時代後期の遺物包含層)、IV層(古代から弥生時代後期の遺構確認面)に区分した。IV層は部分的に深掘りを行ったが、遺構・遺物は検出されなかった。

■ 遺構 上層は水田で、水田の畦畔を検出した。中層も水田で畦畔と水田に関連する溝を検出した。下層は水田の畦畔と水田に関連する溝のほかに、井戸・土坑・畑作溝・溝・自然流路を検出した。

上層・中層・下層の畦畔の方向は概ね一致しており、中層と下層の畦畔がほぼ同じ場所に作られる例が確認できた。この方向は、北側に隣接する山崎遺跡の平成26・27年度に発掘調査で検出された中世の水田の畦畔や溝の方向ともほぼ一致すると思われる。

■ 遺物 上層・中層からは青磁・白磁・珠洲焼・瀬戸焼・美濃焼・土師質土器などの中世の土器・陶磁器、木製品(板材)・刀子などの金属製品が出土した。下層からは弥生土器(後期)、平安時代の土師器・須恵器が出土した。中世の土器・陶磁器は12～15世紀のものが出土している。平安時代の土師器・須恵器は、9世紀末から10世紀のものが多い。(春日真実)



● 位置図(1:50,000)

(国土地理院「柏崎」平成19年発行)

# むい か まち ふじつ か 六日町藤塚遺跡

事業名：国道 17 号六日町バイパス

所在地：南魚沼市余川

面積：2,273m<sup>2</sup>

## ■ 遺跡の立地と調査の概要

遺跡は南魚沼市余川字藤塚に所在し、魚野川左岸の庄之又川によって形成された扇状地に立地する。調査は古墳時代後期と古墳時代中期末から後期初頭の 2 層調査で、標高は前者が約 178m、後者が約 177.8m である。

## ■ 層序

基本層序は I ～ XIII 層に分層した。遺物包含層は IX 層（古墳時代後期）と XII 層（古墳時代中期末から後期初頭）である。両層の間の X 層は礫層で部分的に堆積する。XI 層は砂質シルトで洪水堆積層の可能性が高い。古墳時代後期の遺構検出は X 層では困難なため XI 層で行い、古墳時代中期末から後期初頭の遺構は XIII 層で検出した。また IV 層は古代の遺物包含層であるが、試掘調査時に平成 29 年度の調査範囲から遺構や遺物が確認できないため、調査の対象から外れている。

## ■ 遺構

古墳時代後期の遺構は溝やピット、焼土などを検出した。焼土の周りには焼けた人頭大の礫がめぐり、周辺からは多くの土師器甕の破片が出土している。

古墳時代中期末から後期初頭の遺構では、溝や土坑、ピットなどを検出した。そのうち注目できるのは祭祀に関連する遺構で、樹木の根元からは祭祀に使用したと思われる土器や白玉、勾玉形などの石製品が出土した。樹木自体は枯れて確認できなかったが、遺物を取り上げた後に根の痕跡が見つかったことから、当時、樹木は立っていたと考えられる。土器の器種は杯・鉢・甕・壺が確認でき、杯や甕の中やそ



● 調査区全景（北東から右奥が飯綱山古墳群）



● 位置図（1：50,000）

（国土地理院「十日町」平成 10 年発行）

の周囲から 64 点の白玉が出土した。そのほか、須恵器や土師器、鉄製品などがまとまる範囲が確認できる。この範囲では、須恵器甕 1 個体 + 土師器杯・黒色土器杯各 2 個体 + 鍬・鋤刃先で構成されるまとまりと、土師器壺 1 個体 + 土師器杯・黒色土器杯各 2 個体 + 鍬・鋤刃先で構成されるまとまり、鉄鍬と思われる鉄製品のまとまりが認められる。そのうち、須恵器甕を伴うまとまりと土師器壺を伴うまとまりは器種の組成がほぼ同じで、注目される。

■ 遺物 遺物の主体は土師器や黒色土器である。出土状況は、複数個体がまとまって出土したり、一個体分が間隔を空けて出土したりするなどの特徴があり、器形を復元できる個体が目立つ。須恵器の甕は古墳時代中期の所産である。新潟県内にこの時期の須恵器窯は確認できず、他地域からの搬入と考えられる。玉類は勾玉形や白玉、土製？の玉がある。これらの玉類は土器がまとまる範囲から出土する傾向がある。鉄製品では鍬・鋤の刃先が注目される。周辺の北沖東遺跡から古墳時代の木製農具が出土しており、南魚沼地域への水田耕作の浸透を物語る。

■ まとめ 調査の結果、遺跡の特徴として、土器の復元率の高さや出土状況、遺構が少なく建物も確認できないことなどが挙げられる。さらに、土器がまとまる範囲の近くからは、祭祀に使用する玉類も出土する傾向がある。これらのことから、遺跡と祭祀が密接に関連していた可能性が高く、遺構の少なさはそのことを反映していると考えられる。

また遺跡に隣接する余川中道遺跡<sup>よかわなかみち</sup>では、古墳時代中期から後期の祭祀跡や水田が見つかっている。一方、周辺の丘陵上には県指定史跡の飯綱山古墳群<sup>いづなやま</sup>・蟻子山古墳群<sup>ありごやま</sup>（ともに古墳時代中期から後期）が立地する。これらの遺跡は存続時期が重なり、相互に関連していた可能性が考えられる。丘陵上に古墳を作り、その麓で水田耕作や祭祀などの生活を営むという古墳時代の南魚沼の風景が彷彿とする。（山崎忠良）



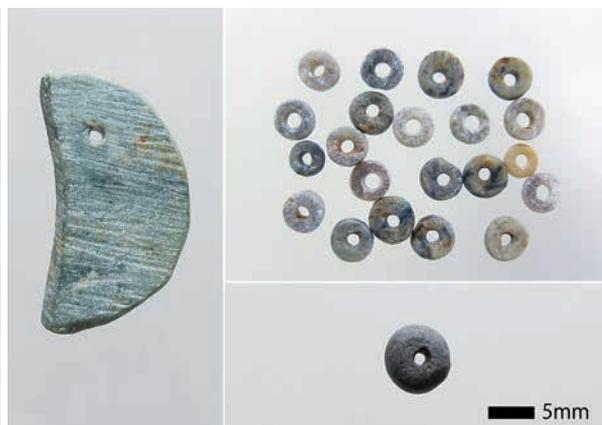
● 樹木の根元から出土した遺物



● 土師器・須恵器・鉄製品がまとまる範囲



● 出土した土器



● 出土した玉類（左：勾玉形 右上：白玉 右下：土製玉）

# よ かわ な か み ち 余川中道遺跡 (V)

事業名：国道 17 号六日町バイパス

所在地：南魚沼市余川

面積：458m<sup>2</sup>

■ 遺跡の立地と調査の概要 みなみうおぬまし よ かわあざ え ぼた 南魚沼市余川字江端に所在し、しょうのまたがわ 庄之又川の扇状地に立地する。平成 29 年度は近尾川ちかおがわの橋脚に係る範囲を調査した。中世と古墳時代中期の 2 層調査で、標高は前者が約 177.4m、後者が約 177.2m である。

■ 層 序 基本層序は I～VII 層に大別でき、VII 層以下には基盤となる砂礫層が堆積する。また近尾川に近い東側では VI 層以下が堆積せず、V 層直下から砂礫層となる。IV 層が中世の遺物包含層、VI 層が古墳時代中期の遺物包含層で、V 層が中世の遺構確認面、VII 層が古墳時代中期の遺構確認面である。

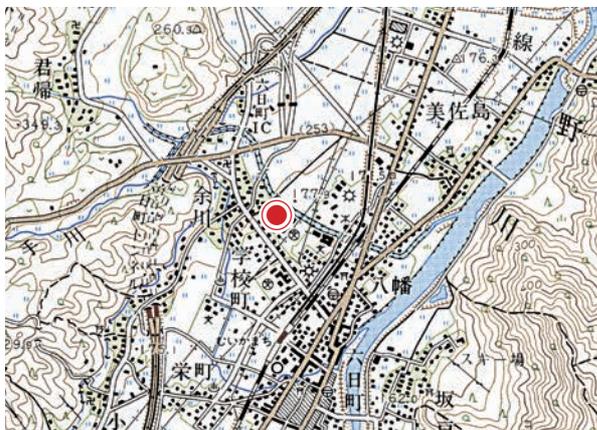
■ 遺 構 中世の遺構は掘立柱建物 1 棟、土坑 3 基、溝 3 条、ピット 14 基、性格不明遺構 2 基を検出した。このうち掘立柱建物 1 棟 (SB3)、溝 2 条 (SD3004・3199)、性格不明遺構 2 基 (SX3003・3011) は平成 21 年度調査で検出した遺構の延伸部分である。SB3 は柱の配置が不規則ながら、桁行 3 間 (5.5m) × 梁行 3 間 (3.6m) の建物と考えられる。北側の SX3011 からは平成 21 年度と同じように鉄滓が出土し、廃滓場と考えられる。

古墳時代中期の遺構は溝 1 条、ピット 31 基で、溝は平成 21 年度に調査した SD3650 の延伸である。SD3650 は中世の溝に切られ、検出できた長さは約 1.4m であるが、土師器や白玉が出土した。平成 21 年度の調査成果と合わせ、祭祀との関連が想定できる。ピットは西側の狭い範囲に分布し、調査範囲外にも広がる。

■ 遺 物 中世の遺物は、土師質土器・青磁・白磁・珠洲焼・越前焼・柱根・鉄滓などが出土した。時期の分かる遺物は少ないものの、14～15 世紀のものが確認できる。古墳時代中期の遺物には土師器や白玉があり、白玉は SD3650 やその周辺から出土した。また SD3650 からは高杯がつぶれた状態で出土している (写真)。

■ まとめ 中世・古墳時代中期の調査とも、平成 21 年度調査遺構の延伸部分を確認した。中世の調査は、SB3 や廃滓場を検出し、集落の実態解明の一助となる。古墳時代中期では、西側の狭い範囲にピットを検出した。ピットは平成 29 年度の調査範囲外に広がると考えられ、建物など居住域の存在が期待される。

(山崎忠良)



● 位置図 (1 : 50,000)

(国土地理院「十日町」平成 10 年発行)



● 高杯の出土状況 (SD3650)

## 4 整理・報告作業

平成 29 年度の整理作業は、当該年度に発掘調査を行った 6 遺跡を含めて 13 遺跡について実施した。このうち、事業団職員が埋文センターで作業したものは六反田南遺跡Ⅵ、蕪木遺跡、境塚遺跡Ⅲである。宝田遺跡Ⅲ、丘江遺跡Ⅲは平成 28 年度に編集作業までほぼ終了していたため、最終確認を経て印刷・刊行した。山崎遺跡Ⅱ、丘江遺跡Ⅰ、丘江遺跡Ⅱは民間調査組織に整理作業を委託し、報告書を刊行した。整理作業は、図版作成や編集作業のデジタル化（編集業者委託）と PDF データからの印刷で作業の効率化を図っている。

### 六反田南遺跡Ⅵ（糸魚川市）

国道 8 号糸魚川東バイパス建設に伴い、平成 18 ～ 25 年度に発掘調査を実施した。上層は弥生時代から中世の集落で、中・下層は縄文時代中期の集落である。平成 22 ～ 25 年度発掘調査の中・下層分の整理作業を平成 26 年度から実施している。平成 29 年度は最終年で図版作成、原稿執筆・編集などを行い、報告書を刊行した。

### 蕪木遺跡（阿賀野市）

国道 49 号阿賀野バイパス建設に伴い、平成 26・27 年度に発掘調査を実施した。平安時代・鎌倉・室町時代の集落で、平安時代の掘立柱建物・土坑・溝や鎌倉・室町時代の井戸・火葬土坑などを検出した。平成 29 年度は遺構図版の作成、遺物の接合・実測・図版作成、原稿執筆・編集などを行い、報告書を刊行した。

### 境塚遺跡Ⅲ（阿賀野市）

国道 49 号阿賀野バイパス建設に伴い、平成 27 年度に発掘調査を実施した。上層は鎌倉・室町時代の集落で、掘立柱建物・井戸・方形周溝状遺構などを検出した。また、曲物に納められていた 2,907 枚の一括出土銭がある。下層は縄文時代晩期で竪穴建物・掘立柱建物などを検出した。平成 27 年度に遺構図版の作成を行い、平成 29 年度は遺物の接合・実測・図版作成、原稿執筆・編集などを行い、報告書を刊行した。



● 整理作業風景

## 5 平成 29 年度刊行報告書

シリーズ No. 発行日	報告書名 所在市町村	体裁 頁数	事業名	調査 年度	種 別	主な 時代	主な遺構	主な遺物	担当者
第 265 集 H30.03.30	山崎遺跡Ⅱ 柏崎市	A4 版 376 頁	国交省 国道 8 号 柏崎 BP	H26・ H27	集落	弥生	土坑・ピット	弥生土器・石製品(管玉未成品)	継 実 (藤村ヒュー ム管備)
					集落	古代	井戸・土坑	土師器・須恵器	
					集落	中世	土塁・掘立柱建物・溝 ・井戸・土坑・ピット	土師質土器・珠洲焼・瀬戸美濃焼・越前焼・備前系陶器・天目茶碗・瓦器・青磁・白磁・青白磁・青花・木製品(漆器碗・杵・曲物・柄杓・下駄・箸・柱根)・石製品(石塔・茶臼・石臼・硯・砥石)・金属製品(刀子・筭・釘)・銭貨	
第 271 集 H30.03.16	六反田南遺跡 Ⅵ 糸魚川市	A4 版 861 頁	国交省 国道 8 号 糸魚川東 BP	H22～ H25	集落	縄文中 期前葉 ～中葉	竪穴建物 11・土坑 90 ・土器埋設 17・炭化 物集中 2・集石 26・ ピット 1,218・溝 3	縄文土器・土製品(土偶・耳栓) ・石器(打製石斧・磨製石斧・ 擦切磨製石斧・磨石類・石錘等) ・石製品(石棒・玉)・ヒスイ(含 割片)・動物骨	高橋 保
					集落	縄文中 期中葉	竪穴建物 10・炉 5・ 土坑 27・埋設土器 4 ・炭化物集中 7・集石 1・ピット 40	縄文土器・石器(打製石斧・ 磨製石斧・磨石類等)・石製品 (石棒類)・ヒスイ(含割片)	
第 273 集 H30.03.16	宝田遺跡Ⅲ 柏崎市	A4 版 130 頁	国交省 国道 8 号 柏崎 BP	H28	遺物包含地	古代		土師器・須恵器	加藤元康
					生産	中世	水田区画・溝・土坑	土師質土器・珠洲焼・瀬戸美濃焼・青磁・白磁・木製品(木札・曲物側板・杭・板)・銭貨	
						近世	溝 2 条	陶磁器・木製品(漆器)・土人形・煙管・銭貨・鉛弾	
第 274 集 H30.03.30	丘江遺跡Ⅲ 柏崎市	A4 版 177 頁	国交省 国道 8 号 柏崎 BP	H28	集落	中世	掘立柱建物 26・井戸 45・土坑 33・溝 40・ 性格不明遺構 12	土師質土器・珠洲焼・越前焼 ・瀬戸美濃焼・青磁・白磁・ 青白磁・木製品(漆器碗・盤 ・舌長鏡)・石製品(砥石・五 輪塔・宝篋印塔)・金属製品(鉄 斧・包丁・鑿)・銭貨	春日真実
第 275 集 H30.03.30	丘江遺跡Ⅰ 柏崎市	A4 版 213 頁	国交省 国道 8 号 柏崎 BP	H26	遺物包含地	弥生 ～ 古墳		弥生土器・磨製石斧	今井昭俊 (榎吉田建設)
					生産	中世・ 近世	掘立柱建物・井戸・ 土坑	土師質土器・国産陶磁器・輸 入陶磁器・石製品・木製品・ 土製品・金属製品	
						縄文 ～ 古墳	畑作溝・溝・水田		
第 276 集 H30.03.30	丘江遺跡Ⅱ 柏崎市	A4 版 286 頁	国交省 国道 8 号 柏崎 BP	H27	遺物包含地	縄文 ～ 古墳		縄文土器・磨製石斧・石鎌・ 管玉未成品	笹澤正史 (榎吉田建設)
					生産	中世	掘立柱建物 47・井戸 150・土坑 149・竪穴 状土坑 6・墓坑 2・溝 65・階段状施設 1・ピット ・畦畔	土師質土器・輸入陶磁器・国 産陶磁器・石製品・木製品・ 金属製品・ガラス製数珠玉・ 人骨・獣骨	
						中世 ～ 近世	畦畔	陶磁器	
第 277 集 H30.03.30	蕪木遺跡 阿賀野市	A4 版 191 頁	国交省 国道 49 号 阿賀野 BP	H26・ H27	集落	古代	掘立柱建物 5・土坑・ 溝・ピット	土師器・須恵器(墨書 廣)・ 灰釉陶器・アスファルト塊	鈴木俊成
					集落	中世	井戸 1・土坑・火葬土 坑 1・溝・ピット	珠洲焼・瓷器系陶器・木製品(曲 物・漆器碗)・石製品(砥石・ 硯)・金属製品(刀子・釘・銭貨) ・土製品(土鍾)・中・近世陶磁 器	
					生産	中世 ～ 近世	掘込田・土坑・溝		
第 278 集 H30.03.30	境塚遺跡Ⅲ 阿賀野市	A4 版 269 頁	国交省 国道 49 号 阿賀野 BP	H27	集落	縄文	竪穴建物 1・掘立柱建 物 2・土坑 9・炭化物 集中範囲 61・ピット 65	縄文土器・石器	飯坂盛泰
					遺物包含地	古墳	溝 1 条	土師器	
					遺物包含地	古代	土坑 1	土師器・須恵器	
					集落	中世	掘立柱建物 12・柵 1 ・方形竪穴状遺構 1・ 井戸 23・土坑 35・ 方形周溝状遺構 1・ 溝 28・道 2・ピット 212	土師質土器・珠洲焼・瓷器系 陶器・瀬戸美濃焼・青磁・白 磁・青白磁・木製品・石製品 ・多字一石経・金属製品・ 一括出土銭	

## 6 保存処理

平成 29 年度は、担当職員 1 名と嘱託員 5 名で木製品・金属製品の保存処理を行った。また、校外学習で埋蔵文化財センターを見学する小・中学生などに保存処理室を案内して、木製品や金属製品が保存処理を必要とする理由や作業工程、仕上がり品を説明した。下駄や古銭などの処理終了後の遺物を目の前にして土器や石器以外への興味も持ってもらえるように工夫した。

### ■ 木製品の洗浄・台帳作成・写真撮影（第 1 表）

木製品は、先ず報告書刊行順に遺物表面の泥汚れを水洗いし、長い間地中に埋もれ木製品に染み込んだ鉄分などの汚れを落とすために薬液に漬けて脱鉄処理を行う。その後、「保存処理台帳」に登録し、処理前の状態を写真に記録してから、トレハロース含浸処理を始めるまで水漬け保管している。作業は平成 28・29 年度までに報告書が刊行（整理途中を含む）された 10 遺跡、計 1,108 点の木製品を台帳登録した。

### ■ 木製品の保存処理（第 2・3 表）

木製品の保存処理では、乾燥による木材の収縮・変形を防止し、木材の強化を図るため、木材中の水分を空気中でも安定な糖アルコール（トレハロース）に置換し、結晶化させる「トレハロース含浸法」を平成 25 年度から導入した。これが軌道に乗り、大型含浸槽（長さ 3.0m・幅 1m）2 台と小型含浸槽（長さ 1.7m・幅 0.7m）1 台を稼働している。含浸期間は小型木製品では概ね 3 か月、大型木製品で約 8 か月を目途としている。

**小型木製品** 小型含浸槽を年 3 サイクル稼働させ、14 遺跡、計 1,231 点について、含浸から結晶化までの作業を実施した。小型木製品の保存処理は、報告書刊行のペースに追いついた。そして今年度は整理作業中の報告書掲載木製品を早い時期に実測や写真撮影をして、保存処理班に渡してもらい含浸処理を行った。また、平成 28 年度に保存処理を実施した 10 遺跡、計 3,031 点について、スチームクリー

第 3 表 小型木製品の保存処理

報告書 No.	遺跡名	処理点数
153	大坪	1
157	住吉	74
252	宝田	9
262	境塚Ⅱ	220
263	新町	170
265	山崎Ⅱ	57
268	狐宮Ⅲ	6
269	下割Ⅵ	4
269	二反割Ⅱ	3
269	堂古	24
271	六反田南Ⅵ	14
273	宝田Ⅲ	35
274	丘江Ⅲ	96
275	丘江Ⅰ	46
276	丘江Ⅱ	30
278	境塚Ⅲ	242
279	石船戸東	200
合計		1,231

第 1 表 「木製品保存処理台帳」の作成

報告書 No.	遺跡名	登録点数
146	西川内北	11
157	住吉	191
252	宝田	11
265	山崎Ⅱ	97
273	宝田Ⅲ	38
274	丘江Ⅲ	111
275	丘江Ⅰ	66
276	丘江Ⅱ	45
278	境塚Ⅲ	328
279	石船戸東	210
合計		1,108

第 2 表 大型木製品の保存処理

報告書 No.	遺跡名	処理点数
146	西川内北	32
146	西川内南	68
148	西部Ⅰ	5
149	滝寺	3
153	大坪	6
273	宝田Ⅲ	2
274	丘江Ⅲ	1
278	境塚Ⅲ	94
279	石船戸東	10
合計		221



● 丸木舟転用材の含浸槽からの引き上げ



● トレハロース含浸後の結晶化（乾燥）

ナーを用いて表面のトレハロースを取り除き、保存処理を完了した。

**大型木製品** 平成 26 年度から大型含浸槽 2 台を各年 1 サイクル稼働して、保存処理を待つ膨大な大型木製品の縮減に努めている。今年度は 9 遺跡、221 点について、トレハロース含浸法により結晶化までの作業を実施した。埋蔵文化財センターで行った保存処理のなかで最も大きな、石船戸東遺跡の丸木舟転用の井戸側を 4 月から平成 30 年 1 月まで含浸処理した。丸木舟は船首と船尾を切り落とされ、中央部で前後に分割され、さらにそれが縦半分となり 4 片になっていたが、それでも一枚は長さ 2.7m もあった（写真 19 頁下左）。

前年の平成 28 年度に保存処理を実施した大型木製品 10 遺跡、試掘確認調査 1 か所 1 点の計 207 点について、スチームクリーナーで木製品の表面に鮎状に付いたトレハロースを溶かして拭い、しばらく乾燥させ保存処理を完了した。このあと遺物ラベルと保存処理台帳を確認して収蔵庫に収納する。

■ 金属製品の洗浄・台帳作成（第 4 表）

金属製品は、報告書刊行順に遺物表面の泥汚れをエタノールで洗浄し、「保存処理台帳」に登録した後、保存処理まで RP システム（脱酸素剤「RP 剤」と酸素や水を通さないハイバリアフィルム「エスカル」を用いた保管方法）により保管している。作業は 4 遺跡、計 155 点について実施した。

■ 金属製品の保存処理（第 5 表）

金属製品は、先ず X 線透過撮影により遺物の構造や劣化状態を確認した後、遺物表面を覆っている錆をグラインダーやメスなどで除去する。その後、腐食を促進する塩化物・硫酸を脱塩処理により取り除き（下左）、遺物の強化と腐食促進因子による再汚染防止を目的としたアクリル樹脂の含浸を行った。

平成 29 年度は 10 遺跡の鉄製品 66 点について保存処理が終了し、2 遺跡 2 点は錆落としまで行った。青銅製品は 7 遺跡 176 点の保存処理が終了し、報告書整理中の 2 遺跡 189 点の錆落としを行った。

第 4 表 「金属製品保存処理台帳」の作成

報告書 No.	遺跡名	登録点数
269	堂古	73
269	下割VI	34
269	二反割II	2
270	柄目木III	46
合計		155

第 5 表 金属製品の保存処理

【鉄製品】

報告書 No.	遺跡名	処理点数
28	木崎山	1
116	奈良崎	23
120	下割 I	2
125	下沖北 I	17
128	仲田	6
133	青田	2
137	蟹沢	1
138	五反田	6
139	余川中道 I	7
189	寺前	1
合計		66

【青銅製品】

報告書 No.	遺跡名	処理点数
116	奈良崎	1
120	下割 I	105
125	下沖北 I	20
128	仲田	9
134	下割 II	18
138	五反田	7
140	下沖北 II	16
合計		176

鉄製品錆落としまで

報告書 No.	遺跡名	処理点数
276	丘江 II	1
277	蕪木	1
合計		2

青銅製品錆落としまで

報告書 No.	遺跡名	処理点数
278	境塚 III	182
未定	上野	7
合計		189



● 金属製品の脱塩処理



● 樹脂含浸後の鉄製品の復元

### Ⅲ 普及啓発事業

内 容	会 場	期 日	参加人数	備 考
親子考古学教室	県埋蔵文化財センター	8/14・8/20	86	各日午前・午後の部
少年少女考古学教室	県埋蔵文化財センター	6/18・9/10・11/12・1/14	51	
子供考古学体験教室	えしんの里記念館	8/16	10	
まいぶん祭り	県埋蔵文化財センター	10/1	407	
にいつ花ふるフェスタ	県埋蔵文化財センター	6/4	405	
巡回展「縄文の造形美－六反田南遺跡－」	県埋蔵文化財センター	4/14～6/25	4,632	期間中の講演会・花ふるフェスタの参加者数も含む
「東日本大震災復興支援発掘出土品展」	県埋蔵文化財センター	7/14～9/3	1,971	期間中の講演会参加者数も含む
秋季企画展「砂丘と平野のくらし」	県埋蔵文化財センター	9/15～3/25	6,118	
新潟県埋蔵文化財センター講演会	県埋蔵文化財センター	4/30・5/14・6/18・9/10・10/15・11/12・12/10・1/14・2/18・3/18	556	
東日本大震災復興支援発掘出土品展講演会	県埋蔵文化財センター	7/23・8/27	87	
第22回遺跡発掘調査報告会シンポジウム「丸木舟の考古学」	新潟県立生涯学習センターホール	3/4	132	事前申し込み制
巡回展「縄文の造形美－六反田南遺跡－」	十日町市博物館	7/8～8/27	3,497	3会場合計 19,386人
	糸魚川市 フォッサマグナミュージアム	9/9～10/29	14,270	
	新潟県立歴史博物館	11/25～12/17	1,619	
「発掘！ 新潟の遺跡 2017 展」	新潟県立図書館 エントランスホール	2/27～3/11	464	参加者数は配布資料数から算出 期間中の図書館入館者数14,763人
展示会「発掘された板倉区の遺跡」	えしんの里記念館	7/22～9/3	1,480	参加者数は配布資料数から算出

#### 1 現地説明会

平成29年度は5遺跡の発掘調査を行い、4遺跡で現地説明会を開催した。説明会では、検出した遺構の公開と説明、出土遺物及び調査の様子を写した写真パネルの展示と説明を行った。六日町藤塚遺跡・余川中道遺跡は調査を急ぐ都合上、遺物展示のみ行った。



● 土橋北遺跡現地説明会

#### 現地説明会

開催日	遺跡名	事業名	所在地	主な時代	参加人数(人)
10/21(土)	土橋北遺跡	県営湛水防除事業 安野川5期地区	阿賀野市	縄文	76
10/21(土)	丘江遺跡	国道8号 柏崎バイパス	柏崎市	中世	48
10/28(土)	六日町藤塚遺跡 余川中道遺跡	国道17号 六日町バイパス	南魚沼市	古墳	63
合計		4遺跡			187

※六日町藤塚遺跡と余川中道遺跡は、2遺跡合同の遺物展示会（現地見学なし）。

## 2 巡回展・企画展・展示会

### ■ 巡回展「縄文の造形美―六反田南遺跡―」

埋文センター・十日町市教育委員会・糸魚川市教育委員会・新潟県立歴史博物館の主催により開催した。糸魚川市六反田南遺跡では縄文時代中期前葉～中葉の集落から大量の土器や磨製石斧及び製作工程品が出土し、選りすぐりの遺物が文化庁主催「発掘された日本列島 新発見考古速報 2016」の主演として全国を縦断した。当展では、この遺物を埋文センター（4/14～6/25）、十日町市博物館（7/8～8/27）、フォッサマグナミュージアム



● 「縄文の造形美」展示の様子

（9/9～10/29）、新潟県立歴史博物館（11/25～12/17）の4会場で開催した。観覧者は合計24,018人にのぼり、延べ188日にわたって展示した。各主催者が展示品の運搬や展示作業及び経費を分担する方法で初めて行い、市町村と協力する巡回展の新たなスタイルを提示した。

### ■ 東日本大震災復興支援発掘出土品展

新潟県教育委員会・埋文センターが主催し、宮城県教育委員会、宮城県山元町教育委員会、宮城県南三陸町教育委員会の協力を得て、7/14～9/3に開催した。新潟県が派遣した埋蔵文化財専門職員が宮城県で発掘調査した多賀城市山王遺跡（古墳～平安時代）、南三陸町新井田館跡（室町時代）、山元町山下館跡（鎌倉・室町・戦国時代）、山元町合戦原遺跡（飛鳥～奈良時代）の出土品やパネルを展示した。観覧者数は1,971人である。震災からの復興への取り組みについて理解を深めていただく機会となった。

### ■ 秋季企画展「砂丘と平野の暮らし」

新潟県教育委員会が発掘調査を行った聖籠町山三賀Ⅱ遺跡（古墳・奈良・平安時代）、新発田市馬見坂遺跡（縄文～平安時代）・青田遺跡（縄文時代）、野中土手付遺跡（古墳・奈良・平安時代）、住吉遺跡（鎌倉時代）、小船渡遺跡（奈良～室町時代）・砂山中道下遺跡（室町時代）の出土品から、砂丘と平野の歴史を辿るもの。馬見坂遺跡の縄文前期の土器、青田遺跡の赤漆塗り糸玉（県指定品）、山三賀Ⅱ遺跡の須恵器、野中土手付遺跡の墨書土器、住吉遺跡の青磁、小船渡遺跡の多字一石経、砂山中道下遺跡の呪符など特徴的な出土品を展示した。9/15～3/25に開催し、観覧者数は6,118人である。



● 「砂丘と平野の暮らし」展示の様子

### ■ 展示会「発掘された板倉区の遺跡」

埋文センターが発掘調査地で行う展示会の一環として、糸しんの里記念館（上越市板倉区）との共催で7/22～9/3に開催した。北陸新幹線建設工事に係り発掘調査を行った上越市板倉区五反田遺跡・仲田遺跡の出土品を展

示し、当地における古代～中世の歴史について理解を深めていただいた。8/16には「子供考古学体験教室」を開催し、小学生10名が参加して縄文土器を観察するなどした。観覧者数は1,480人である。

### 3 遺跡発掘調査報告会・講演会

#### ■ 第22回遺跡発掘調査報告会・シンポジウム「丸木舟の考古学」

3月4日に新潟県立生涯学習推進センターホールで開催した（主催：新潟県教育委員会・埋文センター）。調査報告は阿賀野市土橋北遺跡（縄文時代）、南魚沼市六日町藤塚遺跡（古墳時代）、柏崎市丘江遺跡（中世）・宝田遺跡（古代～近世）である。シンポジウムでは阿賀野市石船戸東遺跡の鎌倉時代の丸木舟と縄文時代の丸木舟について報告した後に、赤羽正春氏から「大陸の丸木舟」と題し御講演いただいた。パネルディスカッションでは丸木舟の操船方法などについて議論した。参加人数は132人である。3月に開催したのは平成16年以来であり、速報性の高い内容となった。また、シンポジウムは平成30年度企画展の開催を前提としたもので、企画展の準備を進めるうえで効果的である。

#### ■ 発掘！新潟の遺跡2017展

遺跡発掘調査報告会に合わせ、2/27～3/11に新潟県立図書館エントランスホールで開催した。展示遺跡は上記の調査報告4遺跡と石船戸東遺跡の合計5遺跡である。報告会と同様に速報性の高い内容となり、多くの展示品が初公開となった。期間中の図書館入館者数は14,763人、配布資料を取られた方は464人である。



●「発掘！新潟の遺跡2017展」の様子

#### ■ 講演会

企画展等に関連するテーマで、各時代の専門家が遺跡の調査成果を織り交ぜながら歴史を解説するものである。県文化行政課と当財団職員のほか外部講師として、小熊博史氏（長岡市立科学博物館）、水澤幸一氏（胎内市教育委員会）、齋藤瑞穂氏（新潟大学）、前嶋敏氏（新潟県立歴史博物館）を招き、御講演いただいた。年間10回開催し、参加者は合計556人である。

### 4 校外学習等・体験イベント

#### ■ 校外学習・出前授業・職場体験・団体見学

平成29年度に校外学習や職場体験などのために来館した学校等は42校2,464人（職場体験複数日来館含む）、出前授業として対応した学校は12校で473人、合計54校2,937人であった。平成28年度に比べ校外学習は4校419人の増加、出前授業は3校219人の減少となった。校外学習の主な内容は、本物の土器や石器を用いた歴史学習、火起こしなどの体験学習、埋文センターのバックヤードを見学する仕事見学である。仕事見学を行った学校は平成28年度に比べ10校増加し、キャリア教育への関心の高まりが反映していると考えられる。職場体験では、土器の接合や拓本、金属製品の洗浄など埋文センターならではの仕事を組み入れた。団体見学は13団体313人であり、平成28年度に比べ6団体71人増加した。

#### ■ 少年少女考古学教室・親子考古学教室

平成29年度から新規事業として少年少女考古学教室（全4回）を開催した。学年や地域が違う仲間たちと交流しながら、土器や石器などの遺物に触れ、様々な体験活動をとおして古代の人々の知恵や生活を学ぶことを目的とする。「縄文土器の観察と土器作り体験」、「竪穴住居の観察と木の実採集」、「石器や金

平成 29 年度体験学習参加校一覧

校 外 学 習

No.	月	日	曜日	学校名	学習の内容						人 数 引率者含む
					展示見学	実物学習	火起こし	勾玉作り	石器体験	仕事見学	
1	4	14	金	新潟市立桜が丘小学校	○	○	○			○	84
2		19	水	新潟市立結小学校	○	○	○	○			128
3		21	金	新潟市立金津小学校	○	○	○			○	50
4		26	水	新潟市立矢代田小学校	○	○	○	○			37
5		26	水	新潟市立金津小学校	○						18
6		27	木	新潟市立木戸小学校	○	○	○	○		○	60
7		28	金	新潟市立荻川小学校	○	○	○		○	○	120
8	5	1	月	新潟市立亀田東小学校	○	○	○		○	○	158
9		2	火	新潟市立下山小学校	○	○	○	○	○		123
10		8	月	新潟市立新津第一小学校	○	○		○	○		63
11		9	火	新潟市立曾野木小学校	○	○	○	○		○	65
12		18	木	新潟市立新津第一中学校							7
13		19	金	新潟市立新津第一中学校							7
14		24	水	新潟市立新津第三小学校	○	○		○		○	129
15	6	6	火	新潟市立小合小学校	○	○	○		○	○	11
16		14	水	五泉市立川東小学校	○	○	○			○	48
17		22	木	新潟市立阿賀小学校	○	○			○	○	48
18		30	金	新潟市立新潟小学校	○	○	○	○		○	107
19	7	27	木	みかわ・かみかわ児童クラブ	○	○		○	○		107
20		28	金	つがわ児童クラブ	○	○		○	○		47
21	8	22	火	ひでや児童クラブ	○	○		○	○		18
22	9	1	金	新潟市立松浜小学校	○	○	○		○	○	99
23		13	水	燕市立大関小学校	○	○	○		○	○	19
24		14	木	新潟市立白井小学校	○	○		○	○	○	27
25		15	金	新潟市立青山小学校	○	○				○	70
26		20	水	新潟市立小合東小学校	○	○		○	○	○	12
27		27	水	新潟市立小合中学校							2
28		28	木	新潟市立小合中学校							2
29	10	17	火	新潟市立東中野山小学校	○	○			○	○	121
30		25	水	新潟市立矢代田小学校	○	○		○			35
31		26	木	新潟市立新津第二中学校							8
32		27	金	新潟市立新津第二中学校							8
33		27	金	新潟市立新津第二中学校	○						217
34	11	2	木	新潟市立早通小学校	○	○	○	○	○		23
35		6	月	新潟市立漆山小学校	○	○	○		○	○	36
36		7	火	新潟市立小須戸小学校	○	○	○		○	○	45
37		9	木	新潟市立潟東小学校	○	○	○		○	○	41
38		10	金	新潟市立和納小学校	○	○		○	○	○	41
39		14	火	新潟市立升潟小学校	○	○	○		○	○	20
40		22	水	新潟市立太田小学校	○	○	○				17
41		28	火	新潟市立上所小学校	○	○		○	○	○	110
42	1	19	火	新潟市立南中野山小学校	○	○		○	○		76
合 計					36	34	20	18	22	23	2,464

出 前 授 業

1	4	18	火	新潟市立大淵小学校		○	○				26
2		20	木	新潟市立新関小学校		○	○				18
3		24	月	阿賀野市立神山小学校		○			○		20
4		25	火	新潟第一中学校		○					86
5		25	火	五泉市立愛宕小学校		○			○		47
6	5	2	火	新潟市立南浜小学校		○		○			16
7		10	水	新潟市立白根小学校		○			○		86
8		10	水	燕市立吉田南小学校		○		○			71
9	7	24	月	阿賀野市京ヶ瀬児童館		○		○			24
10	10	14	土	妙高市立新井中央小学校		○		○			19
11		21	土	新潟市立新関小学校		○		○			22
12		29	日	新潟市立潟東小学校		○		○			38
合 計					0	12	2	6	3	0	473

団体・その他（職員が解説等をした団体）

No.	月	日	曜日	学校名	学習の内容						人数 引率者含む
					展示見学	実物学習	火起こし	勾玉作り	石器体験	仕事見学	
1	5	12	金	朝日旅行	○						14
2		17	水	豊美クラブ	○						18
3		24	水	新潟県高等学校退職者会	○						20
4		25	木	新潟県立図書館	○						11
5	6	2	金	小針緑町自治会	○						29
6		12	月	学遊会 21	○						14
7		13	火	水島町内会	○						27
8	7	1	土	文化財保護全国協議会	○						63
9		26	水	絆の会	○						20
10	10	5	木	カレッジメイト 21	○			○			28
11		12	日	CB ツアーズ	○						13
12		15	水	こどものいえ保育園	○						45
13	12	13	水	明治大学文学部	○						11
合 計					13	0	0	1	0	0	313

属器の観察と石器体験」、「縄文時代の編み物の観察と編み物体験」を行った。遺跡や歴史に興味がある小学4年生～中学3年生が参加し、参加者数は延べ51人、全回参加者は6人であった。親子考古学教室では縄文土器の観察や火起こし・土器作りなどの体験を行い、37組86人が参加した。

■ 花ふるフェスタ・まいぶん祭り

「花と遺跡のふるさと公園」内で実施する「にいつ花ふるフェスタ」(6/4)では、火起こし選手権大会、勾玉作り、クイズでガチャなどを行い、参加者は405人であった。まいぶん祭り(10/1)は新潟市秋葉区産業振興課・新潟市弥生の丘展示館・新潟県立植物園との協働で実施し、火起こし選手権大会や勾玉作りのほか、新潟県立歴史博物館の協力を得て石斧体験を行った。参加者は407人である。



● 少年少女考古学教室の石斧を研ぐ体験

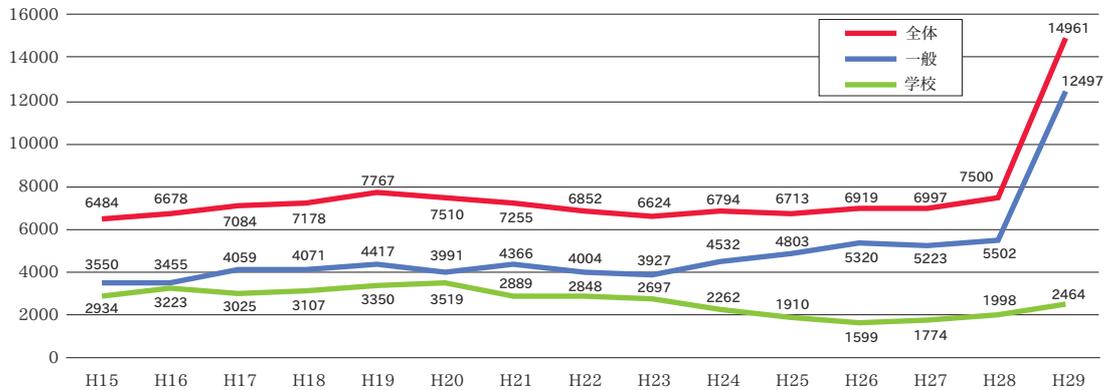
## 5 入館者数

埋文センターは平成8年10月1日に開館以来、平成29年度末で21年6か月が経過した。埋文センターの常設展示室では、県民に新潟県の歴史に親しんでいただけるように通史に主眼を置いた展示を行っている。また、エントランスの展示スペースは企画展示スペースとして活用している。年末年始の6日間を除き連日開館し、見学できるようになっている。埋文センターの所在する新潟市秋葉区の「花と遺跡のふるさと公園」には、ほかに新潟県立植物園・新潟市新津美術館・新潟市弥生の丘展示館・史跡古津八幡山遺跡、民営の新津フラワーランド（花木鉢等販売）などがあり、年間30万人以上が訪れている。しかし、埋文センターが一番奥まった場所に位置しているため、存在に気付く人は少ない。そこで、正面玄関前に「開館中」などの幟旗を設置して、遠目からでも埋文センターの存在が分かるように工夫している。

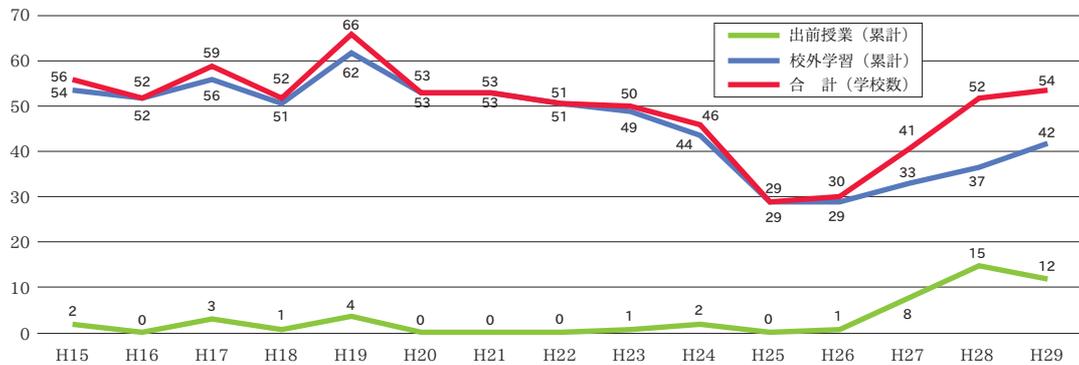
入館者は、数年来7,000人を上回ることを目指してきたが、28年度はついに7,500人となり、ひとまず目標を達成した。平成29年度には埋文センター年間催し物計画のパンフレットを作成・配布するなど広報に努めた結果、開館後初の1万人の大台に乗った。なお、入館者集計方法を従来の来館者による任意の記帳方式から赤外線カウンター方式に変更し、より実態に近い入館者数を把握できるようになったことも急激な増加の一因ではある。

校外学習での利用は、前年度末に近隣小学校に出向いて広報した結果、前年度より5校増加した。平成30年度以降は近隣施設との連携をさらに強めながら幅広い年代層に届く効果的な広報を行い、埋蔵文化財の活用に努めたい。

### ■ 入館者の推移



### ■ 体験学習等参加学校数の推移



## 6 広 報

### ■ 年 報

1年間の事業概要の総括したもので、8月31日に平成28年度版(A4版30頁)を刊行した。

### ■ 埋文にいがた

発掘調査速報やイベント情報を中心とする広報紙で99号から102号を6月・10月・12月・3月に発行した。印刷部数は2,200部である。第100号からデザインを一新し、さらに興味を持ってもらえるような紙面作りに努めた。

### ■ ホームページ・メールマガジン・Facebook・Twitter

ホームページは事業団の組織・業務の公開のほか、埋文センターで開催される企画展・講演会・体験イベントなどの開催案内、各発掘調査現場での現地説明会の案内、刊行図書等の情報を掲載した。4月から3月までのアクセス数は16,949件であった。メールマガジン・Facebook・Twitterは講演会や体験イベント等の情報を随時配信した。メールマガジンは登録数33件、フォロワー数はFacebook207件、Twitter197件である。

### ■ 年間パンフレット・花と遺跡のふるさと公園パンフレット

埋文センターが行う普及事業を紹介する年間パンフレット(20,000部)を作成し、来館者や県内外の博

平成 29 年度発行 『埋文にいがた』内容一覧

号	発行年月日	調査・整理遺跡紹介	そ の 他	県内の遺跡・遺物
99	6月30日	平成29年度本発掘調査遺跡・整理遺跡一覧	縄文の造形美ー六反田南遺跡ーの紹介 埋文コラム「縄文時代の赤漆塗り糸玉」 東日本大震災復興支援発掘出土品展と関連講演会を開催します 親子考古学教室を開催します 少年少女考古学教室（第2～4回）を開催します	吹上遺跡と吹上遺跡出土品（上越市）
100	10月31日		第100号記念特集「そこは遺跡です！ー発掘調査した遺跡の今ー」 埋文コラム「弥生時代の玉作り」 秋季企画展「砂丘と平野のくらし」	耳取遺跡（見附市）
101	12月28日	六日町藤塚遺跡 上野遺跡	第21回遺跡発掘調査報告会・新潟県埋蔵文化財センター開館20周年記念講演会を開催しました 埋文コラム「縄文時代のアスファルト」 第22回遺跡発掘調査報告会 発掘！新潟の遺跡2017展を開催します	小泊須恵器窯跡群・小泊窯跡群出土品102点（佐渡市）
102	3月26日	土橋北遺跡 丘江遺跡	埋文コラム「磨製石斧」 平成30年度春季企画展「火焰型土器ー縄文の息吹ー」を開催します 少年少女考古学教室（全4回）を開催します	行屋崎遺跡出土品77点（田上町）

物館等の施設に配付して積極的な広報を展開した。また、埋文センターと新潟県立植物園・新潟市文化財センター・新潟市新津美術館・新津フラワーランドが「花と遺跡のふるさと公園」魅力アップ連携協議会を組織し、公園の魅力と施設を紹介するパンフレットを作製した。

## 7 図 書

主な業務は、新刊図書を受入、図書資料の収集・保存・整理・閲覧などである。ホームページ上に平成28年度新規収蔵受付図書一覧と県内市町村別発掘調査報告書等目録（平成29年9月30日現在）を掲載している。また、平成19年度から県内の公立図書館との相互協力ネットワークに参加し、資料要望への対応などで利便性の向上を図っている。このほか平成29年2月6日に「新潟県埋蔵文化財センターと新潟大学学術情報基盤機構附属図書館との連携に関する協定書」を締結し、大学教育において考古学関係の資料を活用しやすい環境を整えた。蔵書管理ではバーコード利用への移行準備、蔵書増加に伴う配架変更を実施し、次年度以降も作業を継続する予定である。

（公財）新潟県埋蔵文化財調査事業団資料室 蔵書・利用統計

### 蔵 書 統 計

年 度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度
新 刊 受 入 冊 数	2,452	2,436	3,512	3,171	2,702	2,674	2,360	2,450	2,450	2,320	2,361
累 積 冊 数	51,332	53,768	57,280	60,451	63,153	65,827	68,187	70,637	73,087	75,407	77,768

### 外部利用者数

	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度
市町村教委埋蔵文化財担当者	47	42	43	36	41	45	34	36	30	29	19
大学生・大学院生・大学関係者	24	26	45	31	56	24	23	6	13	10	17
小学生・中学生・高校生	5	0	0	0	21	2	0	0	0	0	0
教 員	3	0	3	3	1	4	1	1	1	0	1
埋文関係民間企業	100	116	120	47	92	91	49	50	19	33	24
その他埋蔵文化財関係者	19	16	15	26	46	51	71	24	30	21	32
一 般	37	18	12	13	9	16	19	25	25	18	6
合 計	235	218	238	156	266	233	197	142	118	111	99

### 外部利用者コピー機使用件数・枚数

	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度
コ ピ ー 件 数	181	192	165	102	168	143	107	90	53	67	49
コ ピ ー 枚 数	25,317	15,969	16,820	6,553	14,558	7,841	7,473	4,606	1,858	3,002	2,177

## IV 研修・各種委員会

### 1 職員研修

埋蔵文化財専門職員としての資質・能力向上を目的に、文化庁・県教育委員会などが実施する各種研修会・講習会に参加した。

#### ① 文化庁 平成 29 年度第 1 回埋蔵文化財担当職員等講習会

(平成 29 年 8 月 30 ～ 9 月 1 日 神奈川県横浜市・小田原市)：参加者 1 名

- 講義 1 「埋蔵文化財保護行政の現状と課題」
- 講義 2 「埋蔵文化財行政におけるデジタル技術の導入について」
- 報告 3 「平成 28 年熊本地震からの復興に向けて－東日本大震災派遣経験をふまえて－」
- 報告 4 「原発事故からの復興に向けて－南相馬市－」
- 趣旨説明 「埋蔵文化財保護行政における保存と活用 (XIV)」
- 講演 「埋蔵文化財の活用に果たす地域研究の役割」
- 基調報告 1 「神奈川県における埋蔵文化財の活用と地域研究」
- 基調報告 2 「史跡五斗長垣内遺跡の活用と地域研究」
- 基調報告 3 「島根県における歴史文化の調査・研究」
- 基調報告 4 「浜松市における地域研究と活用の取り組み」
- 現地見学 「国史跡・石垣山、国史跡・江戸城石垣石丁場跡、国史跡・箱根関跡」

#### ② 県教委 市町村等埋蔵文化財専門職員実務研修

研修 ① (平成 29 年 12 月 8 日 埋文センター)：参加者 8 名

- 講義 1 「掘立柱建物の調査方法と整理方法」
- 講義 2 「掘立柱建物の付属施設について－古代を中心に－」
- 講義 3 「中世の掘立柱建物について－村上市古渡路遺跡の事例を中心に－」

研修 ② (平成 30 年 1 月 12 日 埋文センター)：参加者 8 名

- 講義 1 「土師器・須恵器の観察・実測・計測について」
- 講義 2 「土師器・須恵器の集計・計量」
- 実習 1 「土師器・須恵器観察の実際」

研修 ③ (平成 30 年 2 月 15・16 日 新潟県庁)：参加者 12 名

- 文行報告 ① 「新潟県における埋蔵文化財保護行政の現状と課題」
- 報告 1 「胎内市城の山古墳の調査」
- 報告 2 「見附市耳取遺跡の調査」
- 講演 「埋蔵文化財保護行政の現状と課題  
－保存目的調査のあり方・埋蔵文化財保護行政の継承を中心に－」
- 事例報告 1 「発掘調査体制の構築」
- 事例報告 2 「発掘調査と地域史研究」
- 事例報告 3 「発掘調査成果の活用」

- 事例報告 4 「史跡の整備と活用」
- 文行報告 ② 「平成 29 年度諸問題検討委員会・全国会議報告等」
- 文行報告 ③ 「次年度の活用事業について」
- 文行報告 ④ 「国県指定文化財の取扱・補助金事務」
- 文行報告 ⑤ 「埋文保護行政におけるデジタル技術の導入について等」
- ③ 全国埋蔵文化財法人連絡協議会研修会  
 (平成 29 年 11 月 16・17 日 愛知県名古屋市・常滑市)：参加者 1 名  
 基調講演 「知多半島を駆け抜けた陶芸作家－その出会いと別れ－」  
 調査部会 1 「知多半島の製塩遺跡－東海市松崎遺跡の調査から－」  
 調査部会 2 「近世常滑窯の甕類について」  
 視 察 「とこなめ陶の森資料館、陶芸研究所、研修工房」
- ④ 関東甲信越静地区埋蔵文化財行政担当職員共同研修協議会  
 (平成 29 年 11 月 16・17 日 長野県諏訪市・茅野市・富士見町)：参加者 1 名  
 基調講演 「縄文土器が地域研究に果たす役割」  
 事例報告 ① 「縄文土器研究の成果を展示に」  
 事例報告 ② 「市民総学芸員化の取組と展開」  
 視 察 「特別史跡尖石石器時代遺跡、尖石縄文考古館、史跡井戸尻遺跡、井戸尻考古館」
- ⑤ 独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所 平成 29 年度文化財担当者専門研修  
 (平成 29 年 7 月 10～14 日 奈良県奈良市)：参加者 1 名  
 研修内容 「出土品管理・活用課程」
- ⑥ 新潟県立歴史博物館 IPM 研修 (平成 29 年 4 月 17 日 長岡市)：参加者 1 名  
 研修内容 「IPM とは」・「資料保存の重要性」・「文化財の劣化要因」・「光の資料への影響」・  
 「カビ対策」・「害虫対策」・「実際の管理状況視察」

## 2 安全衛生委員会

### 1) 委 員 会

調査現場及び作業場の安全点検、労務災害の防止などのための作業基準の改定や安全衛生教育の企画立案などをテーマに、委員 7 名で構成する委員会を年間 7 回開催した。

### 2) 研 修 ・ 講 習

- ① 救急法講習 (平成 29 年 10 月 27 日 埋文センター)  
 全職員を対象に救急法の講習を行った。  
 [内 容] 救急法「心肺蘇生法」(人工呼吸、心臓マッサージ、AED 使用法等)  
 [講 師] 日本赤十字社新潟支部 指導員
- ② 消防訓練 (平成 29 年 9 月 29 日)  
 内勤職員を対象に火災時の行動、非常口・消火設備の配置と使用方法の確認について、消防用設備保守点検委託会社社員の指導を得て、講習・実習・実施訓練を行った。  
 [内 容] 1 通報訓練  
 2 避難・誘導訓練  
 3 非常持ち出し訓練

#### 4 消火器・消火栓使用訓練

[講師] 新潟ニッタン㈱ 社員

#### 3) 巡視・点検

事務作業環境の安全・衛生管理を目的として、委員が発掘調査現場及び埋蔵文化財センター内を巡視・点検し、担当職員や委託業者に対して改善事項等の指示・指導を行った。

##### ① 発掘調査現場 (5か所)

平成 29 年 6 月 28 日 丘江遺跡、余川中道・六日町藤塚遺跡

6 月 29 日 土橋北遺跡、上野遺跡

10 月 11 日 丘江遺跡Ⅴ

##### ② 埋蔵文化財センター

平成 29 年 11 月 6 日 職場内巡視

#### 4) その他

交通規則の遵守・事故防止について、毎月の職員会議などの場で適宜注意を喚起し、交通安全（安全運転）の徹底を図った。

## V 市町村及び関係機関等への協力

	協力内容	協力先	期日	担当者
1	史跡古津八幡山遺跡保存活用計画検討委員会 オブザーバー	新潟市	H29年度	沢田 敦
2	平成29年度新潟県市町村等埋蔵文化財諸問題検討会	新潟県教育庁文化行政課	H29年度	土橋由理子
3	史跡長者ヶ原遺跡 発掘調査報告書総論編監修	糸魚川市教育委員会	5月24・25日、 10月24日、 H30年2月20・21日	鈴木 俊成
4	埋蔵文化財保存活用に係る指導	佐渡市世界遺産推進課	6月15・16日	荒川 隆史
5	シルバー人材 発掘調査に関する「技能講習」講義	(公社)新潟県シルバー 人材センター連合会	7月14日	田海 義正
6	史跡耳取遺跡保存活用計画策定委員会 オブザーバー	見附市教育委員会	H29年度	沢田 敦
7	燕市宝崎遺跡出土品整理業務指導	燕市教育委員会	8月31日	沢田 敦
8	平成29年度新潟県市町村等埋蔵文化財専門職員実務 研修① 講師（掘立柱建物の調査方法と整理方法）	新潟県教育庁文化行政課	12月8日	荒川 隆史
9	平成29年度新潟県市町村等埋蔵文化財専門職員実務 研修① 講師 （掘立柱建物の付属施設について－古代を中心に－）	新潟県教育庁文化行政課	12月8日	山崎 忠良
10	平成29年度新潟県市町村等埋蔵文化財専門職員実務 研修① 講師 （中世の掘立柱建物について－村上市古渡路遺跡の事 例を中心に－）	新潟県教育庁文化行政課	12月8日	土橋由理子
11	平成29年度新潟県市町村等埋蔵文化財専門職員実務 研修② 講師 （土師器・須恵器の集計・計量、土師器・須恵器観察 の実際）	新潟県教育庁文化行政課	H30年1月12日	春日 真実
12	加茂市中沢遺跡出土品整理業務指導	加茂市教育委員会	H30年2月7日	春日 真実

### インターンシップ受け入れ

ドイツ・テュービンゲン大学アジア地域文化研究所日本学科の依頼により、下記のとおり留学生4名を受け入れた。

内 容：土橋北遺跡（阿賀野市）での発掘調査体験、埋文センターでの遺物整理復元作業体験、周辺の史跡や施設などの見学。

期 間：平成29年8月7日（月）～8月18日（金）



---

公益財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団年報

平成 29 年度

印刷 2018 年 8 月 30 日

発行 2018 年 8 月 31 日

編集発行 公益財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団  
〒956-0845 新潟県新潟市秋葉区金津 93 番地 1  
TEL 0250-25-3981

印刷 有限会社不二出版  
TEL 024-932-0111

---